

## 「造血細胞移植状態での大腸腫瘍における炎症・免疫反応の検討」について

研究責任者：東京大学医科学研究所附属病院 腫瘍・総合内科  
松原 康朗

【はじめに】 造血細胞移植後には口腔、皮膚、食道、胃、大腸、肺など、様々な臓器において二次固形がんの発症リスクが高まることが知られています。二次固形がんのリスク増加の原因として免疫抑制の影響が考えられていますが、局所での免疫・炎症反応に関する検討は多くありません。大腸腫瘍で悪性度の変化に応じて周囲の炎症細胞の状態が変化することが報告されており、造血細胞移植後では大腸腫瘍への免疫反応が異なる可能性が考えられます。本研究では、東京大学医科学研究所附属病院をこれまでに受診された大腸腫瘍の患者様の診療時の病理組織標本と診療情報を用いて、年齢、性別、生活習慣、既往歴、持病、常用薬、造血細胞移植関連情報を含む臨床経過、検査データ、大腸腫瘍の病理所見と炎症細胞、免疫チェックポイント分子や炎症・免疫関連サイトカインなどの状態を解析し、造血細胞移植を受けた患者様の大腸腫瘍における炎症・免疫状態を造血細胞移植を受けていない患者様と比較検討することで、造血細胞移植後の腫瘍発生リスク増加機序の一端を解明し、診療に役立てることを目的としています。

この研究は東京大学医科学研究所倫理審査委員会の承認を得て研究機関の長の許可を受けて実施されます。

### 【研究期間】

2021年 12月 16日 ～ 2026年 12月 31日

【方法】 当院で診療を行った大腸腫瘍の患者様の診療時の病理組織標本と診療情報を用いて、上記のような臨床データを集積して、造血細胞移植状態をはじめとする患者状態と大腸腫瘍における炎症細胞・免疫反応状態の違いを検討します。

【対象となる患者様とご協力いただきたいこと】 2000年1月以降、2021年12月までの間に当院にて下部消化管内視鏡検査を受け、組織検査の結果から大腸腫瘍と診断された患者様のうち、造血細胞移植を受けられている患者様と、これらの患者様と年齢等の状態に近い移植を受けていない患者様を対象とします。ご協力いただきたいことは、該当する患者様の診療時の病理組織標本と診療情報を本研究に使わせていただくことです。

【個人情報保護の方法】 診療情報を使わせていただくにあたっては、お名前

や患者IDなど患者様を識別できる個人情報を取り除き、新たに研究用の番号を付けて管理します。研究用番号と個人情報の対応関係を記した対応表は鍵のかかる保管庫にて当院の個人情報の管理責任者が厳重に管理して、あなたの個人情報を保護します。

**【研究参加による利益・不利益】** 利益：本調査に参加いただいた患者様個人には特に利益と考えられるようなことはありませんが、研究結果が今後の診療の発展につながる可能性があります。

不利益：保存されている診療情報、病理組織標本のみを用いるため、この研究のために新たなご負担をおかけすることはありません。

**【研究成果の公表について】** 研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者様の個人情報は上述のようにして厳重に守られますので、第三者に患者様の個人情報が明らかになることはありません。なお、論文等で研究成果を発表した場合には、研究成果の再現・反証を可能とするために、「東京大学医科学研究所生命科学系研究データ保存のガイドライン」に則り、病理組織標本及び情報を東京大学医科学研究所に長期間保存させていただくことをご了承ください。

#### **【問い合わせ窓口】**

本研究にご自身の病理組織標本及び診療情報が使用されることを辞退されたい場合には、下記問い合わせ窓口までご連絡ください。辞退の連絡を受けた場合、それ以降、患者様の病理組織標本及び診療情報を本研究に用いることはなく、辞退によって患者様が不利益を被ることはありません。しかしながら、辞退のご連絡を受けた時に、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合は結果を廃棄できない場合がありますことをご了承ください。

その他、本研究へのご質問等がありましたらお問い合わせ下さい。

[研究責任者（問い合わせ窓口）]

東京大学医科学研究所附属病院

腫瘍・総合内科 講師 松原康朗

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

TEL:03-3443-8111

FAX:03-5449-5456

E-mail: ma-yasu@ims.u-tokyo.ac.jp